

2021年スケジュール

2021年6月25日

全国油症治療研究班会議

コロナウイルスの影響によりメール会議として開催されました。

全国油症一斉検診

下記の11班により年に1回実施しています。

昨年の研究成果

2021年6月25日に全国油症治療研究班会議が開催されました。多数の基礎的・臨床的研究の報告が行われました。その概要をご紹介します。

令和3年度全国油症治療研究班会議より 〔その1〕

毎年油症検診結果の集計を行っています。受診者の健康管理のため、また毎年の集計結果の積み重ねにより判明する症状の傾向や変化を治療研究に活かすためにを行っています。

福岡県保健環境研究所生活化学課の堀 就英先生は、令和2年度全国油症検診集計結果と油症患者血液中PCDF等の測定結果について報告されました。

<報告内容>

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大をうけて油症検診の規模が全国的に縮小された影響で、受診者総数は令和元年度の613名に比べて大きく減少し102名となりま

令和3年度 自治体連絡先

福岡県班 (福岡県、大分県、宮崎県)

福岡県保健医療介護部生活衛生課食品衛生係

TEL: 092-643-3280

長崎県班 (長崎県、佐賀県、熊本県)

長崎県県民生活環境部生活衛生課食品乳肉衛生班

TEL: 095-895-2362

関東以北班 (東京都、川崎市、埼玉県、さいたま市、茨城県、横浜市、神奈川県、栃木県)

神奈川県健康医療局生活衛生部生活衛生課

TEL: 045-210-4940

千葉県班 (千葉県)

千葉県健康福祉部衛生指導課食品衛生監視班

TEL: 043-223-2639

愛知県班 (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)

愛知県保健医療局生活衛生部生活衛生課

TEL: 052-954-6297

大阪府班 (滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)

大阪府健康医療部食の安全推進課安全推進グループ

TEL: 06-6944-6705

島根県班 (島根県、鳥取県)

島根県健康福祉部薬事衛生課食品衛生グループ

TEL: 0852-22-6487

広島県班 (広島県、岡山県)

広島県健康福祉局食品生活衛生課食品衛生グループ

TEL: 082-513-3106

山口県班 (山口県)

山口県環境生活部生活衛生課食の安心・安全推進班

TEL: 083-933-2974

高知県班 (愛媛県、高知県、香川県)

高知県健康政策部健康対策課

TEL: 088-823-9678

鹿児島県班 (鹿児島県、沖縄県)

鹿児島県保健福祉部生活衛生課食品衛生係

TEL: 099-286-2786

した。102名の内訳は認定患者が36名、未認定者が66名で
した。このうち血液中のPCDF等 (=ダイオキシン類) を
測定したのは、認定患者が14名、未認定者が66名の計80名
であり、令和元年度の228名に比べて148名減少しました。
80名の測定結果を解析したところ、血液中の
2,3,4,7,8-PeCDF濃度は、認定患者で平均53 pg/g lipid、
未認定者の平均は10 pg/g lipidとなり、認定・未認定とも
に昨年度と同様の値でした。油症診断基準では血液中
2,3,4,7,8-PeCDF濃度が50 pg/g lipid以上を「高い濃度」
としていますが、令和2年度に測定した未認定者66名の中
で「高い濃度」に区分される方はいませんでした。

ダイオキシンによる健康影響について研究しています。

九州大学大学院薬学研究院細胞生物薬学分野の石井祐次
先生は、ダイオキシンが後世代に与える影響について検討
されました。

<報告内容>

妊娠ラットへの2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin
(TCDD) の低用量曝露は、出生児に性未成熟および発育
障害を惹起します。性ホルモン合成の上位制御因子である
黄体形成ホルモンが胎児期に低下し、出生児の性未成熟の
原因となります。また、臨界期に児の成長ホルモンが低下
し発育障害の原因となります。児の発育障害には母体側の
育児ホルモンであるプロラクチンが低下することで、低育
児体質になります。いずれも芳香族炭化水素受容体(AHR)
の関与が分かってきました。我々は、これまでの一連の研究
から、これらを引き起こす上記の3つの原因を見出すこと
が出来ました。

九州大学大学院薬学研究院細胞生物薬学分野の石井祐次
先生は、Selenbp1 (セレン結合性タンパク質1) の腎臓
における役割について検討を行われました。

<報告内容>

当教室ではこれまでに、ダイオキシンが肝臓のセレン結
合性タンパク質1 (Selenbp1) を誘導することを明らかに
してきました。ダイオキシン非処理、絶食条件下の
Selenbp1 欠損マウスで野生型のC57BL/6Jに比べて、腎臓
での抗酸化酵素Superoxide dismutase (SOD) 活性が有意
に低下していました。Selenbp1 欠損マウスでは腎臓組織
中の過酸化水素含量が有意に低かった一方で、脂質過酸化
の指標であるチオバルビツール酸反応性物質 (TBARS)
量は増加傾向が認められました。腎と血清セレン含量に変
動がないことも分かりました。これらのことから、
Selenbp1 は、脂質代謝の制御と酸化ストレス低減作用を
有する可能性が浮上しました。

油症の病態解明のため研究を行っています。

中村学園大学栄養科学部の太田千穂先生は、PCB異性体
の代謝について検討されました。

<報告内容>

2,4,5-三塩素置換型 (245型) や2,3,4,5-四塩素置換型の
PCBは、ヒト血中に高濃度で検出されています。一方、
2,4,6-三塩素置換型 (246型) のPCBはほとんど検出され
ていません。そこで、ラット肝ミクロゾーム (Ms) によ
る代謝を比較したところ、246型PCBは245型PCBに比べ、
非常に代謝されやすいことが明らかになりました。本研究
では、この点をヒト肝で検証するため、246型PCBの代表
であるPCB155を用いて、ヒト肝Msおよび肝酵素のチトク
ロムP450による代謝を調べました。その結果、PCB155は
ラット肝と同様に、ヒト肝でも容易に3-OH体へと代謝さ
れること、また、その生成活性はヒト>ラットであること、
さらに、この代謝には主にヒトCYP2B6が関与することが
明らかとなりました。

昨年の研究成果の概要は、
油症ニュース41号に続きます。